

## 9月21日のウクライナ情報

安齋育郎

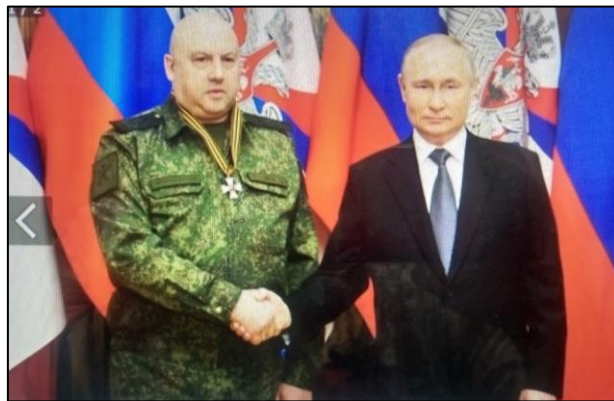
### ①プーチン大統領、スロビキンを解任(朝日新聞、2023年9月18日)

ロシアのプーチン大統領が、ウクライナ侵攻で軍の副司令官も務めるスロビキン・航空宇宙軍司令官を解任したと、ロシアの独立系メディアが 22 日、報道した。スロビキン氏は民間軍事会社ワグネル反乱後から消息が分からなくなり、反乱に関与した疑いで拘束されたと伝えられていた。

ロシアのリベラル系ラジオ「モスクワのこだま」のアレクセイ・ベネディクトフ元編集長が同日、スロビキン氏が航空宇宙軍司令官を大統領令で解任され、国防省預かりとなったと投稿した。

ロシアの独立系メディアによると、解任は 18 日とみられ、大統領令は非公開だという。

スロビキン氏はワグネル創設者エフゲニー・プリゴジン氏に近いとされ、事前に反乱を知っていたとの情報もある。6 月 24 日、動画でワグネルに投降を呼びかけた後、消息不明となっていた。



### ②ウクライナ、中東欧 3 カ国を WTO に提訴 穀物輸入規制で緊張高まる(2023年9月19日)

ウクライナ政府は 18 日、同国産穀物などの輸入規制を独自に導入した中東欧 3 カ国を世界貿易機関(WTO)に提訴したと発表した。穀物問題をめぐり、ウクライナと近隣諸国との緊張が高まりそうだ。

3 カ国はポーランド、ハンガリー、スロバキア。ウクライナのスピリデンコ第 1 副首相兼経済相は声明で、3 カ国の輸入規制で「ウクライナの輸出業者は多大な金銭的な損害を被り続けている」と訴えた。「(3 カ国が)制限を撤回することを望む」として、規制を取り下げるように求めた。

欧州連合(EU)では加盟国が共通の通商政策をとることになっており、加盟国による一方的な輸入規制は EU のルールに反するおそれがある。スピリデンコ氏は「貿易分野における EU 加盟国の一方的な措置は受け入れられない」と訴えた。



### ③ルラ氏、ゼレンスキー氏と20日にNYで会談＝ブラジル大統領府(ロイター、2023年9月19日)

ブラジル大統領府は18日、ルラ大統領が20日にニューヨークでウクライナのゼレンスキー大統領と会談すると発表した。



写真はルラ大統領。7日撮影(2023年 ロイター/Ueslei Marcelino/File Photo)(ロイター)

### ④プーチン大統領「もう強制動員令は下さない…毎日1500人が軍サービスを志願」(2023年9月3日)

極東のウラジオストクで開かれている国際会議「東方経済フォーラム」で質問に答え、昨年の部分動員で招集した30万人に加えてさらに27万人が契約したと説明した。

軍の登録事務所では、毎日1000～1500人が契約書に署名しているとも語った。

かれらは自分が負傷する可能性もあることを承知したうえで、母国に命をささげようと自発的に入隊する人々だと強調した。

昨年9月、ウクライナ侵攻が長期化するなかでプーチン氏が出した部分動員令は、軍務経験のある予備役を対象としていた。

ロシアのプーチン大統領は「毎日1000人～1500人が軍サービスを志願して契約署名している」のでこれ以上の強制動員令は不要だという趣旨で述べた。

12日(現地時間)、タス通信などによると、プーチン大統領は同日午後、ウラジオストクで東方経済フォーラム(ECF)出席中に質疑応答で「ウクライナ戦争のために新たに強制動員令を下す計画はあるか」という質問を受け、このように答えた。ロシア大統領府(クレムリン)は昨年未から、追加の強制サービスはないと繰り返し強調してきた。

ロシアは戦争開始から7カ月が過ぎた昨年9月末、30万人の部分動員令を下した。プーチン大統領はウクライナ侵略戦争を戦争と呼ばず、「特別軍事作戦」と呼んでいる。そのため、全面的な動員令は下せず、部分動員令だけを下した。

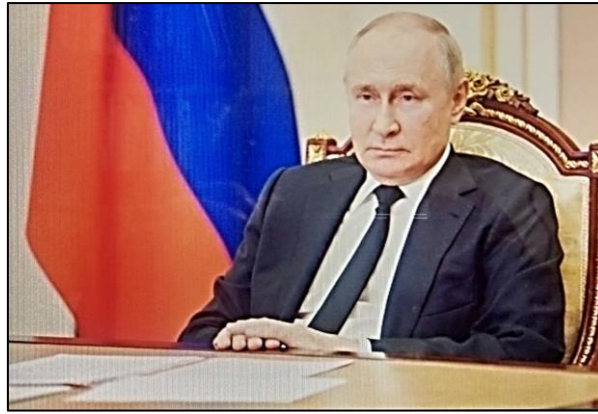
この過程で強制入隊を懸念し、拒否する若者数十万人がロシアから逃げたことがある。

しかしプーチン大統領は「それから6～7カ月間、毎日1000人から1500人程度のサービス志願者がおり、計27万人が契約して軍に入ってきた」と主張し、このような理由で今後追加の強制動員令は不要だと述べた。

ただし、英国国防省は11日、ウクライナ戦況について知らせ、強制動員令が行われないと予想する理由として2024年3月に予定された大統領選挙を挙げた。

一方、米国情報当局は7月を基準にウクライナ戦争でロシア軍12万人が戦死し、19万人がけがした

と推算している。



## ⑤【解説】「こんなの見たことない」 ロシア軍が特別軍事作戦で使う改造兵器の数々 (2023年9月19日)

※安齋注:平和を標榜しながらわれわれ自身がこういう武器情報にさらされ続ける現状は早くやめたいですね。

特別軍事作戦が始まって 18 カ月間の間にロシア軍は軍備のほぼ全スペクトルを使用した。なかには効果を発揮したものも、そうでないものも、また、前線で改造をせまられたものもあった。スプートニクはロシア軍の普通の兵士らが作り上げた兵器や装備からいくつかの種類を拾い、検証してみた。

### 対戦車ミサイル対策

紛争開始当初から、重装甲車両を対戦車兵器から、特に、砲塔の屋根に当たる対戦車ミサイルからどう守るかという問題が深刻に立ちはだかった。対策として戦車に格子状の天蓋が取り付けられるようになった。天蓋の役割は、弾をこれで受け止め、爆発を装甲と接触する前に誘発することで、成形炸薬の噴流を噴射させ、破壊力のほぼ大半を失わせることにある。

加えて、ウクライナ紛争ではかつてないほど大量の無人機が使用されている。(現在、ウクライナ紛争は「世界初の本格的な無人機戦争」と呼ばれるほどだ)このため、ロシア軍は銃の周囲に金網のフェンスを張り巡らせて使用している。無人機は軽量なため、このような、一見、取るに足らない構造物でもその飛行を止めるには十分であることが多い。

### 遠隔操作ができる「コルネット」や AK アサルトライフル

7 月、ロシアのテレビ報道では、致命的な携帯式対戦車ミサイル「コルネット」を改造し、発射台から最長 50 メートル離れた場所で遠隔操作できるようにすることで、敵の報復射撃があった場合のオペレーターの命のリスクを減らす試みが行われていると紹介された。

そして 8 月、ロシア軍の修理部隊は、AK-74 アサルトライフルから破片手榴弾 RGD-5 を発射することができる特殊アダプターを発表している。

### なんでもありの装軌車両

戦闘車両を職人技で改造すれば、高まるのは兵士の生存率だけではない。火力も向上することがよくある。兵士らは車両に追加の武器、装備、通信、監視装置を取り付けている。

汎用装軌装甲車両 MT-LB は自己改造兵装の数では堂々たる最高記録を保持している。MT-LB には対空機関砲 ZU-23-2、120 ミリ迫撃砲、対戦車ミサイル砲、空中発射ロケットランチャー(か、無誘導航空ミサイル)、大口徑機関銃、グレネードランチャーが溶接されている。

時には、かなりエキゾチックなバリエーションにお目にかかることもある。例えば、ある時 SNS で流

布された写真の車両は、砲塔に 25 ミリ二連装艦載機関砲 2M-3 を搭載していた。

### 偵察用途だけじゃないドローン

商業用コプターもまた、近代戦の現実に適応している。まず第一に、偵察、目標指定、砲撃補正のためだ。

ウクライナ軍には、空中のドローンを検知するだけでなく、操縦者の正確な座標を割り出す技術的手段がある。だが、ロシア軍はこれに対抗する手段を編み出した。ドローンのソフトを、しかも戦場で変更している。

さらに、双方ともいわゆる「投下」メソッドを使用している。これは、ドローンに改造を加え、手榴弾や地雷を空中に持ち上げさせることで、ドローン自体を軽量型の爆撃機に変えるやり方だ。

破損した機器は前線の近くで整備、修理される。ブレードなどのスペアパーツの一部は 3D プリンターで印刷されている。

前線で工業製品が不足していても、こうした自前の改造品は時にそれよりも優れていることさえある。



### ⑥オデッサの悲劇(既報、投稿日:2022年11月19日)

労働組合建屋に逃げ込んだデモ参加中の親ロシア住民を公然と射殺するウクライナ、ネオナチ民兵警察。

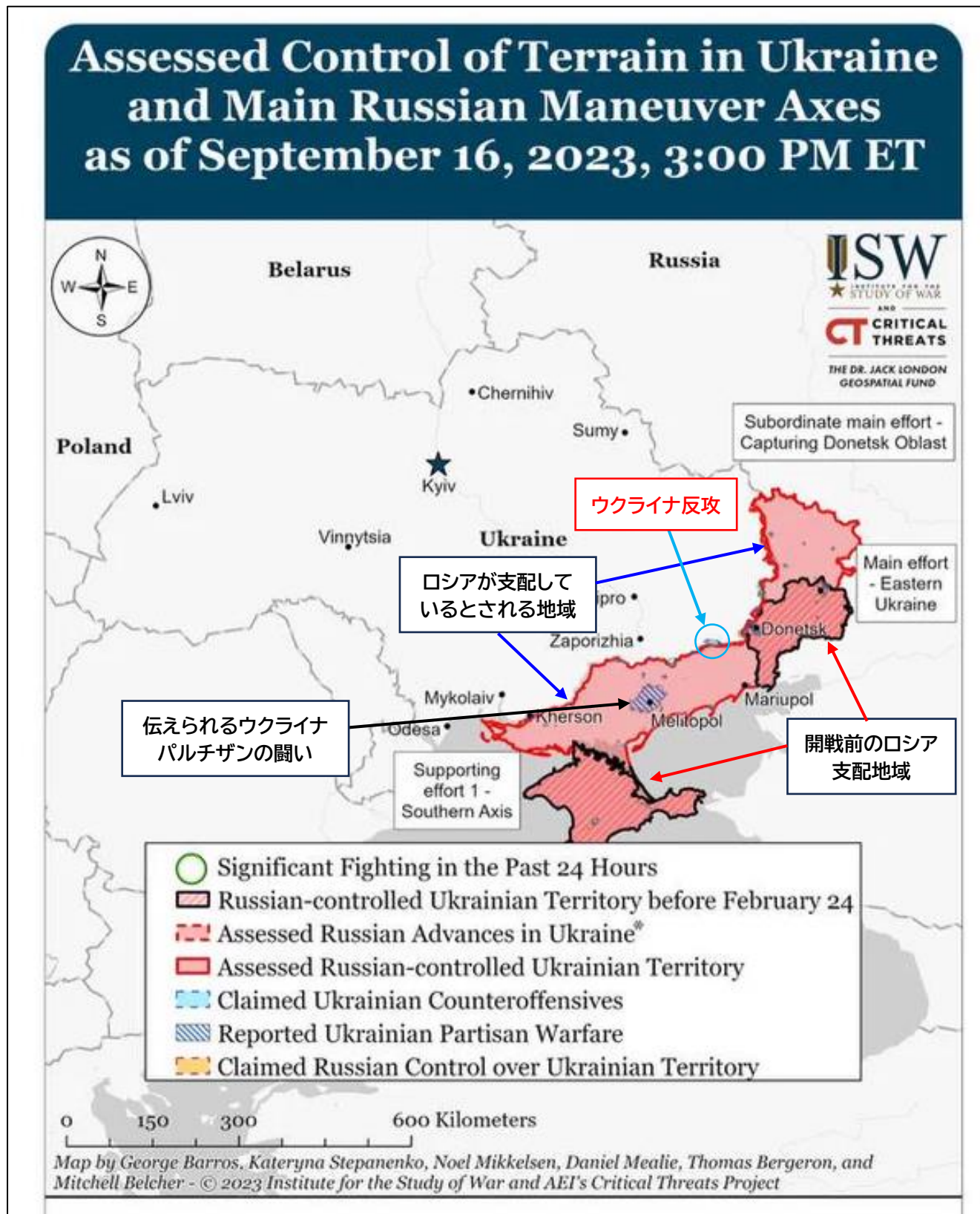
モロトフカクテルと言われる火炎瓶を大量に作るウクライナ女性。包囲され焼き殺されるRU親ロシア派市民。

既に米国ネオコンに乗っ取られたUAウクライナ政府。

<https://twitter.com/i/status/1593835302430179328>



⑦投資家のデイビッド・サックス氏が投稿したウクライナ軍による攻勢の結果(9月16日現在)を示した地図(2023年9月18日)



イーロン・マスクがこの戦況地図を見て、「わずかな結果のために多くの死」と嘆じた。マスク氏はこれまでもサックス氏のこの記事に反応している。サックス氏はアフガニスタンを引き

合いに出し、米政権がウクライナでも同じような失敗を犯そうとしていると警鐘を鳴らしているが、これに対しマスク氏は「よく言った」とコメントし賛同している。

露国防省によると、反転攻勢開始から3ヶ月あまりで、ウクライナ側は7万人の兵力と1万8000の軍事装備を失っている。

#### 紛争激化を阻止

マスク氏が所有する民間宇宙開発企業スペース X 社の衛星インターネット通信「スターリンク」を巡っては、このごろ、クリミア半島での通信をマスク氏が制限してウクライナによるロシア海軍への攻撃を妨害したと報じられた。

これについてマスク氏は、そもそもクリミア半島付近でサービスは行っていなかったとしたうえで、「スターリンクを作動させてほしいとウクライナから緊急要請があったが、ロシア艦隊を撃沈するのが目的だったことは間違いない。もし私が彼らの要求に同意していたら、スペース X は紛争激化の共犯者になっていただろう」と断ったことを明かしている。

これを受け米上院の軍委員会は、米国防総省ではなくマスク氏に決定権があることを問題視し、調査を進めている。

## ⑧【解説】ロシアはウクライナ軍のスターリンク通信をジャミングできるか 専門家が語る(2023年8月1日)

ウクライナ軍に重宝されている衛星インターネット通信システム「スターリンク」。だが、ここ最近では前線の一部で使用できなくなっている事例が報告されている。この背景には何があるのだろうか。スポーツニクが軍事専門家の話をもとにまとめた。

まずはスターリンクについて軽く触れておこう。スターリンクは米実業家イーロン・マスク氏の民間宇宙企業「スペース X」が運営する衛星インターネット通信システム。高度約550キロメートルの低軌道上を周回する約4400基の衛星を使い、理論上世界のどこでもインターネット通信が可能となっている。

ウクライナ軍は前線でスターリンクを活発に利用し、ドローンの管制にも使用している。だが、米紙「ニューヨーク・タイムズ」が伝えたところによると、マスク氏はこのごろ、クリミア半島付近でウクライナ軍がインターネット接続を求めた際には拒否している。本人はコメントしていないが、このほかにもしばしば使用制限をかけているという。

だが、ウクライナ軍が困難に直面した背景には別の理由もありそうだ。ルガンスク人民共和国軍の退役中佐、アンドレイ・マロチコ氏は、スポーツニクに対し、次のように述べている。

「傍受されたウクライナ兵の通信を分析すると、ルガンスク方面でスターリンクを利用した通信に困難が生じているようだ。多くの方はロシアが電子戦装備を使用して通信を妨害したことが原因であると考えている」

ロシア国防省は、この件に関して公式のコメントは出していない。

#### ロシアの電子戦システム

米紙「ワシントン・ポスト」は4月、米国防省から流出した秘密文書をもとに、ロシアが電子戦システム「トボル」でスターリンクの通信を妨害する実験を行っていたと伝えている。それ以上の詳細には触れられていないが、ロシアは実際に衛星通信をジャミングできる兵器を保有している。

これまでに露国防関係者はスポーツニクに対し、ロシアが静止軌道上(上空約3万6000キロ)に

ある衛星との通信を妨害する兵器を開発したと明かしている。詳細は軍事機密のため明かしていないが、「敵の電子機器を抑圧するだけでなく、永久的に無効にすることもできる」と話している。

「トボル」以外にも、ロシアは「クラスハ」、「モスクワ」、「インファウナ」、「リール」、「トライアド」といった様々な高性能電子戦システムを保有している。

軍事ポータル「ミリタリー・ロシア」の創設者で軍事アナリストのドミトリー・コルネフ氏は、スプートニクに対し、次のように話す。

「注意点は、妨害ができるのは非常に限られた範囲だということだ。それでも強力な電子戦システムであれば、数百平方キロメートルの範囲をカバーできる」

コルネフ氏は一方で、敵の通信を完全に遮断することはできず、つながりにくくすることができるだけだとも指摘している。

露軍予備役中佐で露軍事政治分析局の軍事アナリスト、パベル・カルミコフ氏は「電子戦機器は最高機密で、誰も具体的には詳細を明かさないと指摘。それでも様々な情報から判断すれば、ドンバスでスターリンクが妨害されている可能性はありうるとの考えを示している。

また、露陸軍の退役大佐の軍事アナリスト、ビクトル・リトフキン氏は、次のような意見を述べる。

「4000基のイーロン・マスクの衛星を、全て停止させる能力を持つ電子戦システムを我々が持っているとは思えない。そもそも、本当にジャミングが必要なのか。全ては具体的な状況と軍指導部の決定によるだろう」

### スターリンクを「OFF」にしたらどうなるか

仮にスターリンクが作動しなくなったとすると、ウクライナ軍には深刻な問題が発生するとコルネフ氏は指摘する。

「西側の専門家によると、現代の軍事作戦は通信に依存するところが大きい。戦車や塹壕の兵士が、自らの周りで起こっていることを把握できた時点で、任務の半分は終了しているとみなしてもいい。自分が誰に狙われているか、誰を攻撃すればいいかを考える必要はもはやない。西側の理論は戦車兵や塹壕の歩兵の一人ひとりが、通信手段を持っているという前提のもと成り立っている。これこそ、スターリンクがウクライナに提供しているものだ」

ロシア側がスターリンクの大規模なジャミングに成功すれば、ウクライナ軍にとっては「通信惨劇」となる。部隊間の連絡が途絶え、ドローンの攻撃能力も大幅に制限される。ウクライナは戦術と装備を根本的に変える必要に迫られ、時間と機動力を失うことになる」とコルネフ氏は締めくくった。



## ⑨ウクライナによる原発攻撃(2023年9月19日)

※投稿者コメント:ウクライナは原子力発電所を破壊して欧州を核の雲まみれにしようとしていた作戦がありロシアが食い止めたとプーチン大統領。過去形の話でした全部。終わったから。

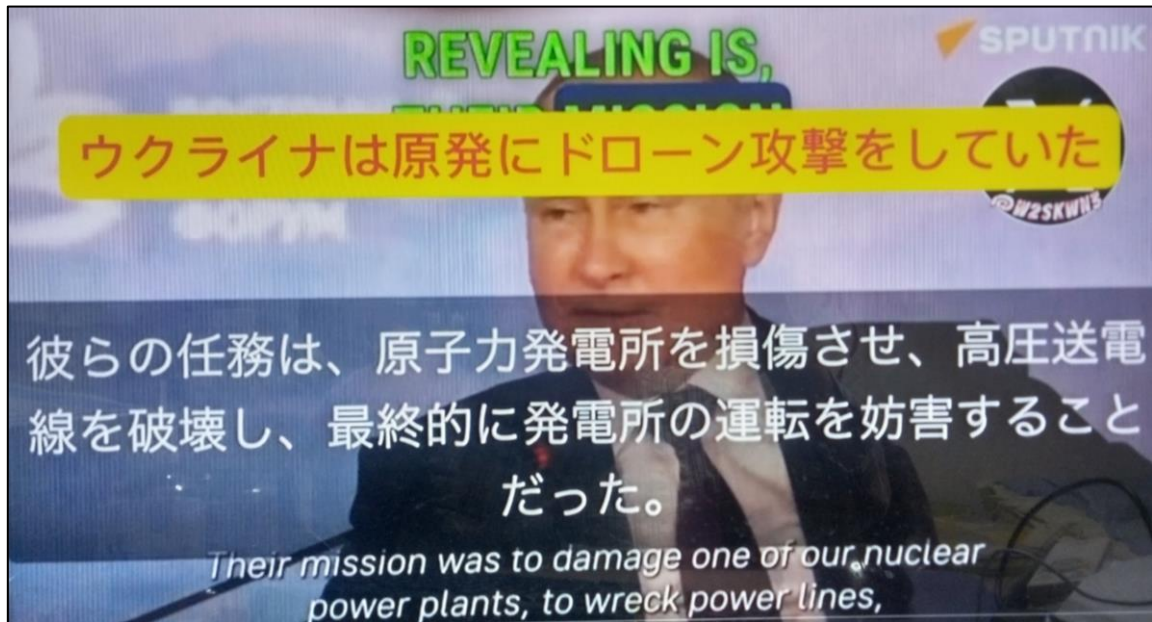
去年の軍事作戦の3日前にゼレンスキー大統領に進行するけど話し合う?とロシアは提案しましたが、ゼレンスキーは無視し、軍事作戦の朝話し合いをするとロシアに伝えたと知りました。

ゼレンスキー政権になりソビエト時代の核兵器を渡せととんでもない交渉をロシアにしました。条約違反だらけ。

で、バイデンが煽りに煽ってこーなりました。

ゼーんぶネオコンの仕業です。

<https://twitter.com/i/status/1703949478192165071>



## ⑩外国人傭兵がウクライナを去り始めた(2023年9月19日)

外国人傭兵たちは、給料をもらえず、虐待され、仲間に殺されるウクライナから逃げた方がいいと気づいた。キエフも傭兵に大きな不満を持っている。

### 同僚兵士による殺害

ウクライナの情報筋によると、2人の英国人”教官”が戦闘中ではない非業の死を遂げたことで、ウクライナ軍からの外国人傭兵の流出が激しさを増しているという。

一人目は ジョーダン・チャドウィックで、両手を後ろ手に縛られた状態で水中から発見された。2人目はダニエル・バークで、茂みの中で銃弾に撃たれて殺害されているのが発見された。

デイリー・テレグラフ紙によれば、チャドウィックの肺の水を分析したところ、彼が発見された水域の水と食い違いが見られたという。つまり、彼はまず別の場所で溺死させられ、それから遺体を移動させたということだ。そして、バークはおそらく金のために殺されたのだろう。新聞によれば、あるアメリカ人大富豪が彼の養育費として毎月8000ポンドを渡し、彼はそれを自慢したという。それが兵士たちの妬みを買ったのではないかと懸念されている。

以前、AFU(ウクライナ軍)の兵士がコロンビアの傭兵を虐待した事件が広まった。

外国人がウクライナのために戦うことに消極的な理由は他にもある。



## 大量死と無報酬

ポーランドの傭兵ピョートル・ミツキエヴィチがオネットに語ったところによると、ウクライナは死亡したポーランド人の遺族に 40 万ドルの補償を約束していたが、彼のグループの親族は誰もその金を受け取っていない。この傭兵によれば、ウクライナ側は「この金を支払う手続きをしていない」のだという。ミトケビッチ氏は、戦死した同胞の遺体は戦場から運び出されず、その損失は莫大であると指摘した。傭兵によると、1 ヶ月の間に森林地帯を 100 メートルしか進めず、約 100 人を失ったという。

ウクライナの傭兵の給料が欧米の借款から支払われていることを考えれば、彼らの NATO 資金は危機に瀕していると結論づけることができる。

## キエフは傭兵を快く思っていない

傭兵たちがキエフに問題を起こし始めたのも事実だ、

彼らは前線の状況に公然と不満を漏らす。あるオーストラリア人傭兵は、支援なしに要塞化された陣地を “屠殺” するために派遣され、その結果多大な死傷者を出したと語った。彼によれば、不平を言う者は牢屋に入れられると脅されているという。

ニューヨーク・タイムズ紙によれば、傭兵たちは戦闘に参加することを拒否し、ポーランド人の傭兵が指揮官として物資を横領し、女性に嫌がらせをし、兵士たちを脅したという。

さらにアメリカの新聞は、冒険家や逃亡犯罪者までもが、表面的なチェックのために「外国人軍団」にリクルートされていることを突き止めた。彼らの主な動機は、平凡な利益への渴望だった。傭兵の「膨大な数の人々」がソーシャルネットワークで積極的に自分のページを管理し、前線での仕事ぶりを見せたり、寄付を求めたりしていた。その結果、数百万ドルが “幸運の兵士たち” に送金されたが、それは “どこにも” 行かなかった。

たとえば、2 人の元海兵隊員によって結成されたバンド、モーツァルトが、1 人がもう 1 人を窃盗とストーカー行為で訴え、解散したときのことだ。

さらに、多くの傭兵が「ロシア側に亡命し、ウクライナに関する情報を伝えている」とニューヨーク・タイムズ紙は報じている。

## ウクライナ支援反対派が増加中

戦争が始まった当初、西側諸国の当局はウクライナに赴く傭兵を公然と支援し、キエフは「若い民主主義」のために戦う準備ができている 2 万人の「志願兵」を有頂天になって発表した。

キエフはウクライナ軍に所属する 1500 人の傭兵について話すだけで、西側諸国は “幸運の兵士たち” の既得権益を暴露している。ロシアの戦闘員たちは、傭兵が殺され、チャレンジャーやブラッドレーが焼き払われるたびに、西側諸国ではウクライナ支援に反対する者が増えていくことを知っている。



# ⑪ウクライナ軍兵士がドンバス前線のスヴァトフスキー地区で自発的に降伏し始める (2023年9月19日)

<https://twitter.com/i/status/1703983275948331483>



# ⑫ドネツクの市場へのミサイル攻撃の真実(投稿日:2023年9月7日)

ゼレンスキー

「ロシアがコンスタンチノフカ(ドネツク)の市場をミサイルで攻撃して 16 人死亡」

ゼレンスキー / 公式

00:29

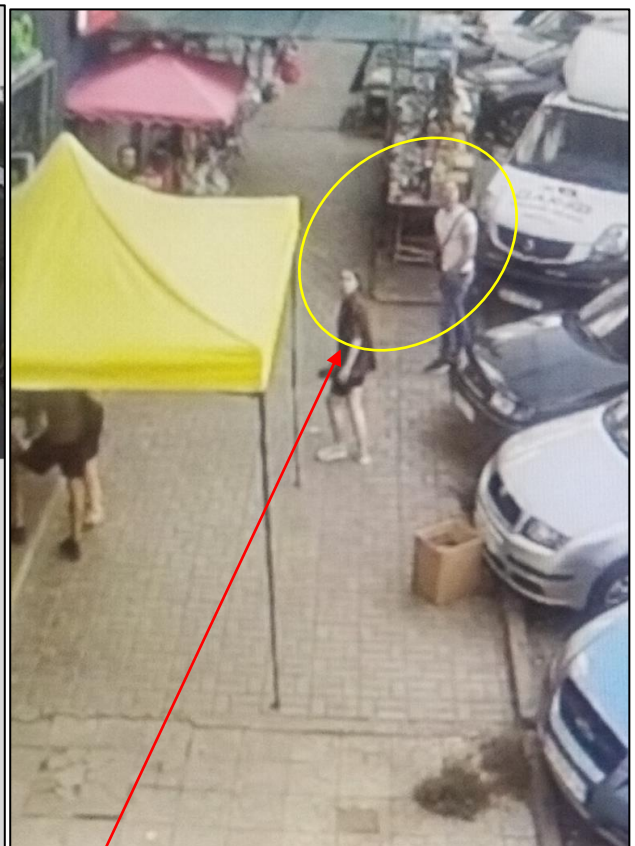
7023-09-06 14:04:10

世界の誰かが依然としてロシア的なものに対処しようとするとき、それは現実から目を閉じることを意味します。悪の大胆さ。意地悪の大胆さ。本格的な人外。

このとき、ドネツク地方のコスティアンティニウツィ市ではロシアのテロリストによる攻撃により16人が死亡した。普通の市場。お店。薬局。何も悪いことをしていない人たち。負傷者多数。残念ながら、死者と負傷者の数はさらに増える可能性があります。

愛する人を亡くされた皆様にお悔やみを申し上げます！

このロシアの悪はできるだけ早く打倒されなければなりません。



分析の結果、おそらくミサイルは米国製 AGM-88HARM でウクライナ軍基地方向から発射されたものだったことが判明。

監視カメラの位置と、**ミサイル着弾前に住民が見上げている方向**が AFU(ウクライナ軍)のドルジキ

フカ方面。

ウクライナ軍が発射した AGM-88 HARM の残骸はドネツクの各地域で相当数発見されている。

ロシアの特別軍事作戦はドネツク含むドンバス地方の解放で、ウクライナは 2014 年から現在進行形でドンバス地方の民族浄化をしていることを思い出そう。

日本のマスコミは大丈夫だろうか？プーチンはこの作戦に当たって、市民を攻撃対象にしないよう指示しています。それでも時に市民が犠牲になるのは、ウクライナ軍が都市部に大砲を設置すること、極右民族集団がしばしば市民を人間の盾にしていること、軍関係の会議などを街中で開催すること、ネオナチはしばしばウクライナ市民を攻撃してロシアのせいにするなどなどが関係しています。

The screenshot shows the NHK News Web interface. The main headline reads: "ウクライナ東部ドネツク州の商店街にロシア軍の攻撃 17人死亡" (Attack on a shopping street in eastern Ukraine's Donetsk region, 17 deaths). The sub-headline says: "ウクライナ東部の工業都市にミサイル攻撃、16人が死亡...市場や薬局など被害" (Missile attack on an industrial city in eastern Ukraine, 16 deaths... damage to markets and pharmacies, etc.). The article text states that on September 6th, a shopping street in Donetsk was attacked, resulting in 17 deaths and 32 injuries. It also mentions that Zelenskyy's government is blaming Russia for the attack.

証拠によれば、マーケットの悲劇を起こしたのは  
ウクライナのミサイル

VISUAL INVESTIGATIONS

## *Evidence Suggests Ukrainian Missile Caused Market Tragedy*

Witness accounts and an analysis of video and weapon fragments suggest a Ukrainian missile failed to hit its intended target and landed in a bustling street, with devastating consequences.